

「長泉町井上靖文学館」を教材とした文理融合教育の試み

— 課題研究「文学館探究～文学と高専力で地域とつながろう」(中間報告) —

芳賀 多美子*

An Academic Approach to Liberal Arts-Science Integrated Education Utilizing the Yasushi Inoue Literary Museum in Nagaizumi Town

HAGA Tamiko

Key Words: Arts-Science Integrated Education

1. はじめに

中央教育審議会答申(令和7年2月21日)は、未来社会を担う人材育成のために、文理横断・融合教育を推進し、課題発見・解決能力や協働力を備えた人材を育成することを強調し、知の総和を高めるためには、教育研究の質向上と多様な学問分野の融合が不可欠としている。「文理横断・融合教育」は、単なる知識の追加ではなく、異なる分野を組み合わせる新しい価値を創出する教育である。

そこで、「文理横断・融合教育」「文理横断的思考」の試みとして、文学館にアプローチする課題研究[注1]を立ち上げた。言わずと知れた沼津高専は「理」の土壌である。一方、「文学館」は文学の世界観を学芸員の知識と経験で展示をして、文学が好きな人たちの心を惹きつける「文」の領域である。沼津高専の理系知識・技術を土壌として、文系領域の「文学館」にいかにかアプローチするか、「文学館」の問題点に対して高専力を用いて解決への道筋を探れないかというささやかな挑戦である。

2. 長泉町井上靖文学館とは

「長泉町井上靖文学館」(静岡県駿東郡長泉町東野 515-149 クレマチスの丘内)は全国でも珍しい作家存命中に設立された個人文学館である(1973年11月25日開館)。代表作『あすなる物語』に登場する愛鷹山の麓、長泉町に設置[注2]。代表作『あすなる物語』の中で、「寒月ガ カカレバ キミヲシヌブカナ 愛鷹山ノフモトニ住マウ」という歌が詠まれている。

この愛鷹山の麓が現在の長泉町であり、文学館設立の地となった理由とされる。また、長泉町は、井上靖の自伝的三部作『しろばんば』『夏草冬濤』『北の海』や『あすなる物語』に描かれる風景と密接に関係していることから、彼の作品に登場する自然や文化が息づく場所として位置づけられる。そのため、井上靖の文学と人生を体感できる土地として選ばれたと言える。文学館の建物は、『しろばんば』に登場する土蔵をイメージして建築されたという。開館後は、作家本人が何度も来館し、読者との交流や講演を実施。所蔵品は初版本・自筆原稿・愛用品など約3000点にも及ぶ。

かつて、文学館の周辺は「クレマチスの丘」エリアで、ベルナルド・ビュフェ美術館・ヴァンジ彫刻庭園美術館[注3]などととも文化拠点を形成。文学と自然が融合した空間として、観光・教育の場となっていた。クレマチスガーデン(約200品種・2000株のクレマチスを植栽)は、クレマチスの丘の象徴的な庭園で、ヴァンジ彫刻庭園美術館の庭園部分として運営されていたが、2023年9月30日をもって閉館・閉園。現在は一般公開していない。クレマチスの丘全体として、ピーク時は年間約30万人前後(複数施設合計)が訪れていたが、コロナ禍(2020～2022年)で大幅減少し、2022年は約半減。2023年9月にヴァンジ彫刻庭園美術館とクレマチスガーデン閉館後、来場者数はさらに減少し、現在はベルナルド・ビュフェ美術館と井上靖文学館が中心となっている。

しかしながら、文学館入館者数の推移(井上靖文学館調べ)は以下の通り。

2019年	8111人
2020年	2505人(緊急事態宣言により休館時期あり)
2021年	1828人(町営移管のため7月からオープン)

*教養科 Division of Liberal Arts

2022年 3093人
 2023年 2635人
 2024年 2636人

財団時代は7000人～8000人前後で推移していたが、町営に移管、クレマチスの丘ショッピングモールや飲食店の撤退、ヴァンジ美術館閉館、無料シャトルバス廃止などにより、入館者数が激減している。ちなみに、全国の文学館の平均は年間1万人未満で、地方の小規模文学館は5,000～10,000人程度が一般的。従って「井上靖文学館」として財団時代の入館者数が目標値となるだろう。

町営化後の文学館は、来館者増加と幅広い世代へのアプローチを目的に、2階を「ミュージアムライブラリー」に改装して誰でも自由に本を読めるスペースを設置し、児童書や絵本も揃えて家族連れや若年層の利用を促進し、子ども向けの「折る本づくり」「ブックカバーデザイン」「読書感想文お助け塾」などを開催し、親子で楽しめる体験型イベントを増やした。さらに学校向けに出前授業・出張講座を実施し、教育現場との連携も強化している。名言しおり(40種類)を配布し、話題性を高めるなどさまざまな取り組みを行っている。ただ、Facebookや町公式サイトでイベント情報を発信するが、制約も多く発信は限定的である。その他、所蔵品約3,000点は現物展示のみで、オンラインでの閲覧の体制は整っていないのが現状である。

3. 文学館が抱える課題

長泉町井上靖文学館には、現在いくつかの課題や問題点を指摘することができる。

(1) 財政的な課題

開館当初はスルガ銀行などの寄付で運営されていたが、寄付による維持管理が困難になり、2021年度から長泉町が運営を引き継いだ。町営化に伴い改修工事や運営コストが増加し、財源確保が課題。

(2) 来館者数の減少と認知度不足

- ・開館から半世紀近く経過し、若い世代への認知度が低下(若年層への認知度不足)
- ・文学館のテーマが「井上靖」という昭和期の作家に限定されているため、現代の来館者層にとって魅力が伝わりにくい(文学テーマの固定化)
- ・町営化後、企画展やワークショップを増やしているが、観光施設としての集客力が弱い。

(3) コンテンツの固定化

- ・所蔵品は約3000点(初版本、原稿、愛用品など)だが、展示内容が固定化しやすく、リピーター獲得が難しい。
- ・町営化後は「体験型展示」や「出前授業」などを導入しているものの、デジタル化やオンライン発信が限定的。

(4) アクセス面の制約

- ・クレマチスの丘内にあり、自然豊かな立地だが、公共交通機関でのアクセスが不便。(現在、シャトルバスが廃止されているため、平日・土日ともに限定的である)
- ・観光客の多くは車利用であるが、広域的なPRや交通案内が乏しい。

4. 課題研究「文学館探究～文学と高専力で地域とつながろう」提案書(現在進行形)

課題研究チームの学生メンバーが考えた「課題→解決」提案を以下列挙する

課題：コンテンツの固定化

展示チーム-高専力(理系の知識と技術)を生かした展示の工夫。文学館内の壁面利用した映像の可能性に挑戦。

課題：来館者数の減少と認知度不足

広報チーム-「文学館」応援隊でのSNS発信(X・Instagram)効果的な「広報」のあり方を探る。
 ノベルティグッズチーム-AIによるイラスト作成や、レーザー加工機によるグッズ作成に挑戦する。

課題：文学館への交通アクセス

平日・土日ともにスルガ平(クレマチスの丘)に往復できるバス路線は限定的。公共交通機関の整備が必要。がんセンターまでは富士急シティバスが通っているため、そこからスルガ平(クレマチスの丘)をつなぐシャトルバスの運行を提案したい(この点は、静岡県の新規事業によって解決されることを願う。)

【具体的な取り組み計画】

(1) レーザー加工機で作成したノベルティ

沼津高専内にあるレーザー加工機を使ってしおりを作成する。しおりは薄い木の板をレーザー加工機でカットし、レーザー光で井上靖の名言や家訓などを印字する。沼津高専内で発生した端材の活用を検討。

(2) 3Dプリンタで作成した立体文字展示

沼津高専クリエイティブアトリエ内にある3Dプリンタを用いて、手で握れるサイズの立体文字を作成する。並

び替えて井上靖の作品中に登場する文などを作成できるようにし、写真が撮れるような箱型の枠を設置する。大人だけでなく、子供も触って楽しめるコンテンツを作成。

(3) プロジェクションコンテンツ

プロジェクターを用いて井上靖の世界観を演出したコンテンツを天井に放映する。井上靖の作品に登場する情景などに限らず、前述の3Dプリンタで作成した立体文字の放映なども検討する。実現にはプロジェクターの設置が必要。

(4) AR・デジタル立体コンテンツ

空のショーケースなどをスマホのカメラで覗くと、展示物が現れるようなARコンテンツや、ネガフィルムがショーケースに置かれていて、それを読み取ると立体処理された画像が表示されたコンテンツなどを作成する。実物が展示できない物や承諾済みの画像などが展示できる。

(5) 筆跡マッチ度測定

タブレット端末に文字を書くことにより、その人の文字が井上靖の筆跡とどれくらい似ているかを測定できるコンテンツ。実現にはタブレット端末の設置と、井上靖の書いた文字のスキャンデータ・画像などが必要。

(6) リレー小説

井上靖作品中の一文を序文とし、来館者が少しずつ小説を書き足すことにより、半年間で大型の小説作品の作成を目指す。デジタルコンテンツよりも原稿用紙などの紙に実際に書いて貼り付けていく方が体験として高価値を提供できる。

(7) フィールドワーク・クイズアクティビティ

隣接する公園内に、QRコードなどを設置しクイズなどを行えるようにする。スタンプラリーのようにポイントをめぐり、全てを回り切った場合にしおりなどのノベルティを配布する企画。常設ではなく、ゴールデンウィーク期間中などの期間限定で行うことを想定。

(8) 非公式 SNS の運用

沼津高専学生有志チームで井上靖に関連する文学館非公認のSNSアカウントを運営する。発信内容は各種プラットフォームに合わせ、情報は必要に応じて文学館に提供・確認していただくことが望ましい。いずれも、井上靖を知らない人をターゲットとする。

・X (旧 Twitter)

テーマは「もし井上靖がXをやっていたら」という観点で井上靖らしさのある言葉を投稿する。また、一日一つ井上靖の名言を投稿する。

・Instagram

井上靖に関する豆知識やおもしろ情報をリール動画にまとめて投稿する。また、フィード投稿でも関連情報を発信する。

(9) 井上靖ブックカバーコンテストの開催

沼津高専学生有志チームで井上靖ブックカバーコンテストを主催する。コンテストは長泉町や駿東地区の中学生を対象とし、画像生成AIの使用を認めることで絵が苦手な人のエントリーも見込む。また、夏休み中に井上靖文学館で、画像生成AIを用いたブックカバー作成講座を開催し、沼津高専生が講師となってブックカバーの作成とAIリテラシーに関する学習の場を設ける。可能であれば協賛企業などを募って入賞者に図書カードなどを副賞として贈呈する。

5. 今後の文学館展望

日本全国各地の文学館を見れば、例えば、太宰治記念館(青森)や宮沢賢治記念館(岩手)は、観光資源化に成功し、年間数十万人規模の集客に成功している。成功要因は、観光地との連携、デジタル発信、体験型イベント、ブランド力などと考えられる。

また、展示の新しさでは、

・国立科学博物館「おうちで体験!かはくVR」

常設展の標本約25,000点を3Dビュー+VR映像で公開。自宅から博物館を巡る体験が可能で、公開後1週間で40万プレビューを記録。

・国立アイヌ民族博物館(ウポポイ)

VR技術で「バーチャル博物館」を構築。展示室を3Dモデリングし、オンラインで自由に観覧・拡大・検索できる仕組みを導入。

などの先行事例もある。

今後、文学館として挑戦すべきことはまだまだ多い。沼津高専力×井上靖文学館の「融合」が果たして何を生み出せるだろうか。また、今後周辺環境の変化による相乗効果も期待される。静岡県は2024年2月に、旧ヴァンジ彫刻庭園美術館の土地・建物(クレマチスガーデンを含む)を寄附受納し、「新文化施設」として再活用する計画を進めている。新文化施設の開館(2027年度予定)で再び観光客の増加が見込まれ[注4]、さらに期待は膨らむ。

6. 終わりに

ここからが、課題解決のための学生プロジェクトのはじまりである。「課題」を明確化し、自分たちがどの点に「解決策」を見い出すことができるか、現在試行錯誤している。い

くつかの提案は2026年3月からの長泉町井上靖文学館展示企画として公開され、残りも順次9月の展示替えに向けて検討されることになっている。今後も学生たちの奮闘は続く。多様な課題解決の先に、最終目標として文学館の入館者数回復があり、文学館・美術館・クレマチスの丘全体が以前のような観光資源として活気を取り戻すことを願っている。さらには、文学館を訪れる人が、文学を楽しみながら、文学館を輝かせる科学技術の可能性に興味関心を持ってくれることを期待している。文系と理系の融合が社会問題を解決する形を目にして、理系進路の魅力に目を向けてくれたらとも思う。

なお、具体的な活動成果については、今後の「長泉町井上靖文学館」広報を参考とされたい。

[注1]2025年度課題研究「文学館探究～文学と高専力で地域とつながろう」受講メンバーは、湯山修恩(S3)加藤優衣(M3)望月柚花(M3)松浦莉希愛(C2)本多利紗(C2)西森健吾(C2)小川みつき(C2)橋本誠(C1)塩入詩恩(C1)中野歩季(C1)中村そよ(C1)

[注2]長泉町HP [長泉町井上靖文学館／長泉町](#)

[注3] ベルナル・ビュフェ美術館（開館：1973年 世界最大級のビュフェコレクションを誇る美術館）ヴァンジ彫刻庭園美術館（開館：2002年 閉館：2023年9月30日）

[注4]静岡県HP [静岡県新文化施設（旧ヴァンジ彫刻庭園美術館）の利活用について | 静岡県公式ホームページ](#)